

緊急上映会

シリーズ「ゆんたんざ未来世」 チビチリガマから日本国をう！

公約を果たせ！ 沖縄への屈辱的、政治的差別に抗議するため

日本国総理官邸前に座り込んだ人々。4月25日、沖縄 読谷村に9万人が集まった
「普天間基地の県内移設に反対し県外 国外移設を求める県民大会」の記録。



日時：5月29日（土）

第1回上映：午後1時30分から

第2回上映：午後3時15分から

（上映時間：1時間半）

場所：名古屋YWCA 403号（4階）

地下鉄「栄」下車 5番出口東へ徒歩2分

呼びかけ：不戦へのネットワーク

名古屋市昭和区鶴舞3-8-10労働文化センター2階

Tel：052-731-7517

Eメール husen@jca.apc.org

西山監督からの呼びかけ

2010年4月6日から4日間、読谷村在住の金城実（彫刻家）、知花昌一（村議）、知花盛康（農民）の3人が日本国総理官邸前で要請と抗議の座り込みを敢行した。呼びかけから僅か10日間という緊急行動にもかかわらず総理官邸前には延1200人の人々が集まった。

数人の果敢な行動が人々の心を動かし、世の中を動かす場合がある。4月25日には三人が暮らす読谷村で10万人規模の県民総決起大会が行われる。読谷村は沖縄戦で米軍が上陸した場所であり、住民が避難していたチビチリガマ（壕）で強制集団死が起きた場所でもある。彫刻家・金城実さんと知花昌一さんは1986年から翌年にかけて「チビチリガマ世代を結ぶ平和の像」を協働で製作し、強制集団死と平和の問題を共に考え行動してきた間柄である。

私は1986年夏から読谷村に住み「世代を結ぶ平和の像」製作を取材、映画「ゆんたんだ沖縄」として発表した。23年後、私は再び読谷村を拠点にして、若い世代に時代を語り継ぐための記録映画「ゆんたんだ未来世」シリーズの製作を始めた。第一弾は昨秋完成した「知花昌一・沖縄読谷平和学」（94分）。第二弾は「金城実～恨（ハン）を解いて浄土を生きる」（仮題）を編集中でしたが、今回の座り込み行動で、急遽特別編集版「チビチリガマから日本国を問う！」を仕上げることにしました。県内のたらい回しか、県外か。5月末にも予想される政府の結論が予断を許さない状況があり、今や問題は日本に駐留する外国の軍隊、日米安保条約そのものに関心が向けられ始めたからです。戦後65年間もの永きに亘り外国の軍隊が駐留する国が主権国家といえるのか。沖縄はこの日本国の主権者意識を根源的に問うているのだ。

地域社会にどっしりと根を張り沖縄の心を叫びつづける彫刻家・金城実さんと知花昌一さんを記録した映画の自主上映を全国各地に広く呼びかけたいと思います。どうか友人・知人のみなさんに地域上映を呼びかけてください。上映運動で人と人がつながり、地域と沖縄がつながり、世代を結ぶ、そんな平和運動を呼びかけたいと思います。西山正啓（にしやままさひろ）

西山 正啓監督プロフィール

1948年 山口県生まれ

'82「みちことオーサ」で初監督、87年「ゆんたんだ沖縄」、89年「世なおし準公選～東京中野区の教育改革」90年「しがらきから吹いてくる風」、93「水からの速達」'99「ベトナムに生まれて～枯葉剤を浴びた村から」「未来世を生きる～沖縄戦とチビチリガマ」、

2001年「梅香里（メヒャンニ）」、「韓国・沖縄・日出生台／ぬちどう魂の声」'2005年「水俣 わが故郷～ほっとはうす流もやい直し」

2006年「米軍再編 岩国の選択～岩国住民投票の記録」、2007年「消えた鎮守の森～見えてきた沖合移設のからくり」など教育、福祉、環境、米軍基地と日本の関わりなど、幅広いテーマのドキュメンタリーを撮る。

1999年より福岡教育大学『共生社会論』講師

【著書】「おもしろ学校家外授業」（現代書館／共著）「ふたりの画家～丸木位里・俊の世界」（晶文社／共著／写真・本橋成一／聞き採り・西山正啓「しがらきから吹いてくる風」（リトルモア／共著）